

1950年6月

昆 蟲

(7)

傾向が認められる¹⁰⁾。尚2島に於いてトラカミキリ族 *Clytini* の種數及び個體數が多い¹¹⁾ 事は、植物群落の優占種が南西日本的な照葉喬木林である事と考え合わせて興味深い。即ち大島では4種(最多産種は *Anaglyptus kamiyai*) で全種數の22%, 八丈島では5種(最多産種は *Chlorophorus musc sus*¹²⁾ で全種數の31%を占めるが、本州では12%である。而して之れ等の最多産種が本土島に於いては個體數が僅少であるという事實¹³⁾は、*Ceresium hachijensis*, *C. simile* の様に島嶼のみ發見される一群と共に、主として *Acclimation* に興味深い問題を提示するものと考えられる。

[農林省林業試験場森林保護部]

オオニジュウヤホシテントウの圃場 に於ける發生狀況について

中田正彦・廣瀬健吉

Masaiko Nakata et Kenkichi Hirose: On the emergence
and distribution of the large 28-spotted lady beetle in a
potato field

昆蟲の圃場に於ける分布については1936年頃より Fleming 其の他の諸氏によつて研究が進められ、Bliss によつて數學的解明が與えられている。その結果大體に於いて圃場に於ける發生は Poisson 分布をすることが認められている。筆者等はジャガイモ圃場に於けるオオニジュウヤホシテントウの分布狀況を發生初期である5月13日と發生の略完了した5月30日の二回に亘り成蟲數を800株について調査し10株を1區として Poisson 分布の計算によつて豫測變數を算出した。その結果兩回の調査共に χ^2 -test によれば明らかな Poisson 分布を得られなかつた。此の原因については地形的、氣象的、作物の生育狀況等の響影を考えられるが特にこの成蟲の移動分散の特殊性の關係があるのではないかと思われる。その意味で全株について畦毎と畦に直角の各列についての蟲數をしらべてみると圃場の南側と西側の蟲數は多かつた。この關係を畦間及列間について變量分析を行

10) 筆者は日本生物地理學會20周年記念講演會(1949)に於いて詳述した。

11) 他の昆蟲では野村博士(1937)が一般に島嶼にはメイガ科の多い事を指摘した。

12) 寄主植物は、岩瀬和夫氏(1937)が禾本科植物、横田榮三郎氏(1949)がケヤキを報じているが、筆者は成蟲をガクアジサイ・タマアジサイの花上、ケヤキ・シイの伐倒木上で採集した。[追記 白畑考太郎氏(1950)は山形縣飛島に於いてノニンジンの花上より採集している。]

13) 少なくとも局地的分布を示す。三宅恒方博士(1903)も隱岐島に於いて類以の事例を指摘している。

つたところ各畦間に於いては有意な差を認められたが列間に於いては認められなかつた。即ち西側に於いて特別に何らかの要因が作用したものと考えられる。この要因については特別の観察を行つていないが、地形その他の関係から微氣象に左右される蟲の行動によるものではないかと思われる。

要するに比較的山地帯に於けるオオニジュウヤホシテントウの初期發生に於いては明らかな Poisson 分布は認められず發生は株間の近い畦の方向に向つて進展する状況が見られた。發生初期の喰害痕、産卵塊の位置についても同様の觀察が得られる。又新成蟲の出現によつて Poisson 分布をなし夏季の高温によつて再び Poisson 分布はこわされるのではないかと思われる。

[農林省農事試験場]

ブランコケムシより脱出せるブランコ ヤドリバチ *Apanteles liparidis* Bouché に寄生する寄生蜂に就いて

宮本 裕 三

Yuzo Miyamoto: On some parasitic wasps obtained from
the cocoons of *Apanteles liparidis* reared on the caterpillars
of the gypsy-moth

本調査はブランコケムシの最も重要なる大敵の一つである。ブランコヤドリバチに關聯する寄生蜂の組成が、京都附近に於いて何のようになつているか、又それが環境を異にする事によつて如何に變るかを知る爲に行われたものであつて、調査に用いられた材料は、京都大學理學部附屬植物園に於いて、1942、1943 の兩年に發生したブランコケムシより脱出せるブランコヤドリバチの繭群であつて、實驗室内でそれより羽化して來る寄生蜂を調査した。

その結果によると、ブランコヤドリバチを攻撃する寄生蜂の種類は 10 科 17 種に及んでいる。即ち

Jchneumonidae: *Hemitelinae* sp., *Hemiteles* sp., no. 1,
no. 2, *Pezomachus* sp.,

Chalcididae: *Brachymeria* sp.

Tetrastichidae: *Tetrastichus* sp.